

性役割形成と自我同一性地位及び価値観との関連

—女子短期大学生と女子4年制大学生との比較—

The Relation of Gender-Role Formation to Ego-Identity Status and Value

— A Comparison between Junior College Women and University Women —

芳田茂樹 井上知子* 三川俊樹*
YOSHIDA Shigeki INOUE Tomoko MIKAWA Toshiki

I. 問題と目的

増加を続けていた大学進学適齢期の18才人口が数年前から一転して減少に転じ、いよいよ大学の冬の時代到来を実感させられる。社会においては様々な物品が氾濫し、また精神的にはボーダレス時代といわれているように、いわゆる“男であること”や“女であること”という性役割の獲得を延期する若者が増加していると言われている。

青年期における人格形成と精神的健康に関する我々の一連の研究（井上他 1989,1990；三川他 1989,1990,1991）では、1989年に作成した性役割尺度を中心に、自我同一性地位、役割受容や充実感、自我機能など様々な要因との関連を考察し、青年期の人格形成について検討を行ってきた。しかし、収集した資料をもとに中心的尺度である性役割尺度の4因子間すなわち男性性2因子（男性統合性、男性典型性）、女性性2因子（女性統合性、女性典型性）の関連について分析した結果、必ずしもそれぞれ2因子が抽出しえず、またどの因子にも負荷せず、因子的妥当性の観点からみると不適切な項目が含まれていることが判明した。井上ら(1993)は、問題点を改善し新たな性役割尺度を作成するために、1990年から2年間集積した資料をもとに再度検討を加え、新性役割尺度を開発した。

そこで本研究では、一連の研究を踏まえて、特に女子にとって進学を決定するうえで重要なポイントとなっている短期大学学生と四年制大学女子1・2年生との比較を通して、青年期の人格形成の中心課題である性役割形成と自我同一性地位及び価値観との関連を検討する。

* 追手門学院大学

II. 方 法

(1)調査票の構成

①性役割の測定

性役割の測定には、井上ら(1993)が新たに作成した「性役割尺度」を用いた。「性役割尺度」は、「統合的男性性」「行動的男性性」「態度・関心的男性性」「統合的女性性」「行動的女性性」「態度・関心的女性性」の6側面について各6項目で構成され、それぞれの項目が自分自身にどの程度あてはまるかを「非常によくあてはまる」から「まったくあてはまらない」までの5段階で自己評定させるものである。本研究では、特に女子学生について検討を加えるので、女性性役割3尺度のみを使用した。また、得点化にあたっては、「非常によくあてはまる」と回答した方向から、5点～1点を与える。(付表1)

②自我同一性地位の測定

自我同一性地位を決定するために、「探索」および「傾倒」の程度を測定する「自我同一性尺度」(三川ら, 1989)を用いた。この尺度は、「職業」「価値」「学業」の3領域のそれぞれにおける、探索と傾倒の程度をそれぞれ8項目、計48項目で測定するものであった。この尺度は、各項目の記述文がどの程度自分にあてはまるかを考えさせ、「性役割尺度」と同様に「非常によくあてはまる」から「まったくあてはまらない」までの5段階で自己評定させるものであった。得点化にあたっては、「探索」および「傾倒」を表す方向から5点から1点を与えた。なお、自我同一性地位の決定には、各領域ごとに「探索」「傾倒」の得点を組み合わせ、それぞれの被験者を領域ごとに「達成」「モラトリアム」「早期完了」「拡散」の4地位に分類する。(付表2)

③価値観の測定

価値観の測定には、井上ら(1993)が作成した「価値観尺度」を用いた。「価値観尺度」は、「I. 自己成長性」「II. 経済的安定性」「III. 自立性」「IV. 身体活動性」「V. 対人志向性」「VI. 愛他性」「VII. 社会的評価」「VIII. 家庭生活」「IX. 学歴尊重」「X. 健康性」の10尺度各6項目、計60項目からなる。この尺度は、項目の内容が被験者にとってどの程度重要かを質問し、「非常に重要である」から「まったく重要でない」までの6段階で評定させた。得点化にあたっては、「非常に重要である」と回答した方向から6～1点を与えた。(付表3)

(2)調査対象・時期

被験者は、1994年4月～7月にかけて大阪府下のO学院大学、O女子大学、和歌山県下のW大学及び兵庫県下のO女子短期大学の大学生を対象に調査を行った。

本研究では、特に短期大学生と四年制女子大学生、特に1・2年生との比較検討を目的

大手前女子短期大学・大手前栄養文化学院・大手前ビジネス学院「研究集録」第14号（1994年）

に行うので、女子大学生のデータのみを使用した。

なお、調査表のフェイス・シートには、性別・学年・年齢の記入を求めた。

被検者は、短期大学生399名、四年制大学生女子（1・2年生）443名、計842名であった。

III. 結果と考察

(1)性役割、自我同一性及び価値観の短期大学生と四年制大学女子1・2年生との差について

性役割、自我同一性及び価値観について、すべてのデータを用いて平均とSDを求め、平均の差の検定（t検定）結果が、表1である。

まず、性役割においては「統合的女性性」「行動的女性性」「態度・関心的女性性」のいずれにおいても有意な差はみられなかった。

次に、自我同一性についてであるが、「職業」「価値」「学業」のそれぞれの「探索」「傾倒」すべてにおいて、四年制大学女子1・2年生の方が1%～0.1%水準で有意に高かった。このことから、四年制大学女子1・2年生の方が短期大学生に比べて進学する際、志望校決定時に、将来の自分の職業や生き方、あるいは自分の専攻したい学科について積極的に探索し、その上で自己を投入していることが推察できる。それに対して短期大学生は、四年制大学女子1・2年生に比べて自分が将来就きたい職業や進学したい学科や専攻、自分自身の生き方についてあまり深く考えずに決定しているのではないかと考えられる。

価値観については、「I. 自己成長性」と「III. 自立性」で四年制大学女子1・2年生の方が0.1%水準で有意に高く、「II. 経済的安定性」「VII. 社会的評価」「VIII. 家庭生活」においては、0.1%水準で、「V. 対人志向性」では1%水準で、「IV. 身体的活動」と「IX. 学歴尊重」では、5%水準でそれぞれ有意に短期大学生の方が高かった。このことから四年制大学女子1・2年生は、“自分の能力を高めること”や“自分として成長すること”“自分に責任をもつこと”など自分自身の成長や自己の自立に関することに価値をおいており、短期大学生は“経済的に豊かな生活をする”“他人から認められること”或いは、“満足できる結婚生活をおくること”など経済的・家庭的に安定し、他人からも認められたいという社会的評価に価値をおいていると考えられる。

(2)性役割と自我同一性地位の決定要因としての「探索」「傾倒」との関係

性役割と自我同一性との関係を検討するために、性役割の女性性3尺度と職業、価値、学業の各領域ごとに、「探索」「傾倒」尺度との相関をピアソンの相関係数によって算出

性役割形成と自我同一性地位及び価値観との関連

表1 短期大学生と四年制大学女子1・2年生との性役割・自我同一性・価値観の平均とSDおよび平均の差の検定

下位尺度		短期大学生 (N=399)		四年制大学女子1・2年生 (N=443)
性 役 割	統合的女性性	18.03 (4.31)		17.95 (4.80)
	行動的女性性	17.83 (3.04)		17.95 (3.50)
	態度・関心的女性性	20.51 (4.23)		20.28 (4.22)
自 我 同 一 性	職業領域 探索	28.59 (5.86)	<<<	30.32 (5.60)
	傾倒	22.29 (5.71)	<<	23.54 (6.25)
	価値領域 探索	26.33 (5.93)	<<<	28.67 (6.19)
	傾倒	20.82 (5.21)	<<	22.04 (5.91)
	学業領域 探索	26.05 (5.19)	<<	27.12 (5.32)
	傾倒	25.67 (5.95)	<<<	29.63 (5.58)
価 値 観	I. 自己成長性	20.04 (2.54)	<<<	21.05 (2.26)
	II. 経済的安定性	18.86 (2.97)	>>>	17.50 (3.20)
	III. 自立性	19.60 (2.28)	<<<	20.17 (2.27)
	IV. 身体的活動	17.00 (2.81)	>	16.59 (3.22)
	V. 対人志向性	18.66 (2.77)	>>	18.02 (2.97)
	VI. 愛他性	17.10 (2.99)		16.80 (3.40)
	VII. 社会的評価	16.54 (3.21)	>>>	15.76 (3.21)
	VIII. 家庭生活	18.18 (4.06)	>>>	16.21 (4.66)
	IX. 学歴尊重	13.42 (3.76)	>	12.83 (3.82)
	X. 健康性	20.57 (3.03)		20.21 (3.15)

< : p < . 05 << : P < . 01 <<< : P < . 001

し、短期大学生の結果を表2-1に、四年制大学女子1・2年生の結果を表2-2に示した。

まず、短期大学生についてみると、統合的女性性の職業領域の「探索」、価値領域の「傾倒」に1%水準で、職業領域及び学業領域の「傾倒」と価値領域の「探索」に5%水準でそれぞれ有意な正の相関が見られた。行動的女性性尺度では、職業領域の「探索」、価値領域の「傾倒」及び学業領域の「探索」「傾倒」で1%水準の、また職業領域の「傾倒」と価値領域の「探索」では5%水準のそれぞれ有意な正の相関が見られた。態度・関心的女性性については、職業領域、及び価値領域の「探索」においては1%水準で、学業領域の「探索」では5%水準で有意な正の相関が認められた。つまり、統合的女性性や行動的女性性を獲得している女性は、自分の将来の職業や自分の生き方について、いろいろと悩み、考え、探索した結果、自分の進むべき道を発見し自己を投入すると考えられる。しかし、自分の進学したい学科や専攻については、行動的女性性は、自分の進学に積極的

表2-1 短期大学生の性役割と自我同一性との相関（N=399）

下位尺度	職業領域		価値領域		学業領域	
	探索	傾倒	探索	傾倒	探索	傾倒
統合的女性性	.2132**	.1180*	.1435*	.3432**	.0601	.1473*
行動的女性性	.1751**	.1352*	.1414*	.3356**	.2016**	.3105**
態度・関心的女性性	.1771**	-.0045	.3279**	-.0363	.1354*	.0376

* p<.05 ** p<.01

表2-2 四年制大学女子1・2年生の性役割と自我同一性との相関（N=443）

下位尺度	職業領域		価値領域		学業領域	
	探索	傾倒	探索	傾倒	探索	傾倒
統合的女性性	.2882**	.2884**	.1665**	.5032**	.1063*	.2785**
行動的女性性	.2265**	.2203**	.1246*	.3283**	.0873	.2629**
態度・関心的女性性	.1990**	.0775	.2761**	.0130	.0928	.1182*

* p<.05 ** p<.01

に探索した後、専攻を決定しそれに向けて努力するが、統合的女性性はあまり迷うことなく専攻を決定しているといえる。また、態度・関心的女性性を獲得している女性は、自分の将来的展望に対していろいろと思いつくのではあるが、現実に進むべき方向を探し得ず、全力を投入できないのではないだろうか。

次に、四年制大学女子1・2年生についてみると、統合的女性性の職業領域の「探索」と「傾倒」、価値領域の「探索」と「傾倒」及び学業領域の「傾倒」において1%水準で有意な正の相関を示し、学業領域の「探索」でも5%水準で有意な正の相関を示した。行動的女性性では、職業領域の「探索」と「傾倒」、価値領域の「傾倒」、学業領域の「傾倒」でそれぞれ1%水準で有意な正の相関を、また価値領域の「探索」では5%水準で有意な正の相関を示したが、学業領域の「探索」では、有意な相関は認められなかった。態度・関心的女性性では、職業領域と価値領域の「探索」で1%水準で、また学業領域の「傾倒」で5%水準で有意な正の相関を示したが、職業領域及び価値領域の「傾倒」、学業領域の「探索」では有意差はみられなかった。これらのことから考えると、四年制大学女子1・2年生において、統合的女性性を獲得しているものは、自分の進みたい専攻や仕事、生き方という自分の将来設計に対して積極的・肯定的に探索し、その上で自分の進むべきものに全力を投入している。行動的女性性については、自分の将来の仕事や生き方では、統合的女性性と同じ様なことがいえるのだが、自分の進学したい専攻や学科においては、積極的に探索するというよりもむしろ周囲の意見や環境を考慮したうえで決定し、邁進していると考えられる。また、態度・関心的女性性では、将来の職業や自分の生き方を

性役割形成と自我同一性地位及び価値観との関連

あれこれ考えるのであるが、必ずしも自己のエネルギーを投入するまでには至らず、絶えず試行錯誤を繰り返しており、今の学科や専攻についても周囲の意見や自分が置かれている環境に従っているのではないかと推察できる。

以上のことから短期大学生と四年制大学女子1・2年生を比較した時に大きく異なるのは現在の学科や専攻の選択等の学業領域である。短期大学生は、女性の行動的・伝統的な態度の側面を持っている程、積極的に学業について探索している。特に、行動的女性性は学科や専攻を決定するときに自己を深く考え、その上で決定していると考えられるのに対して、四年制大学女子1・2年生では、統合的な女性性を持ち合わせている女性ほど、学科や専攻を決定する際に自己を深く探索し、その後、全力を投入するといえる。

(3)性役割と価値観との関係

性役割と価値観との関係を検討するために、性役割の女性性3尺度と価値観10尺度との相関をピアソンの相関係数によって算出し、短期大学生の結果を表3-1に、四年制大学女子1・2年生の結果を表3-2に示した。

まず、短期大学生についてみると、統合的女性性は、「I. 自己成長性」「II. 経済的安定性」「III. 自立性」「IV. 身体的活動」「V. 対人志向性」「VII. 社会的評価」の6尺度と1%水準で有意な正の相関を示し、「IX. 学歴尊重」とは5%水準で有意な正の相関を示した。行動的女性性とは、「I. 自己成長性」「III. 自立性」「IV. 身体的活動」「V. 対人志向性」「VI. 愛他性」「VII. 社会的評価」「VIII. 家庭生活」と1%水準で、また「IX. 学歴尊重」「X. 健康性」とは5%水準でそれぞれ有意な正の相関を示した。態度・関心的女性性は、全ての尺度と有意な正の相関を示したが、中でも「I. 自己

表3-1 短期大学生の性役割と価値観との相関 (N=399)

下位尺度	統合的女性性	行動的女性性	態度・関心的女性性
I. 自己成長性	.2453**	.2078**	.2409**
II. 経済的安定性	.1940**	.0945	.1581**
III. 自立性	.2432**	.2174**	.2482**
IV. 身体的活動	.1987**	.1647**	.1209*
V. 対人志向性	.2322**	.2370**	.1726**
VI. 愛他性	.0638	.2151**	.1519**
VII. 社会的評価	.3468**	.2942**	.2734**
VIII. 家庭生活	.0975	.3406**	.2980**
IX. 学歴尊重	.1383**	.1479*	.1457*
X. 健康性	.0644	.1210*	.1239*

* p<.05 ** p<.01

大手前女子短期大学・大手前栄養文化学院・大手前ビジネス学院「研究集録」第14号（1994年）

表3-2 四年制大学女子1・2年生の性役割と価値観との相関（N=443）

下位尺度	統合的女性性	行動的女性性	態度・関心的 女性性
I. 自己成長性	.2939**	.2494**	.2187**
II. 経済的安定性	.0059	.0619	.0339
III. 自立性	.3057**	.1917**	.1103*
IV. 身体的活動	.2789**	.1978**	.1190*
V. 対人志向性	.1593**	.3114**	.1432**
VI. 愛他性	.1078*	.3616**	.3070**
VII. 社会的評価	.1420**	.2317**	.2837**
VIII. 家庭生活	.1346**	.3144**	.1396**
IX. 学歴尊重	-.0793	-.0129	.0786
X. 健康性	.0990*	.2410**	.1266*

* p<.05 ** p<.01

成長性」「II. 経済的安定性」「III. 自立性」「V. 対人志向性」「VI. 愛他性」「VII. 社会的評価」「VIII. 家庭生活」とは1%水準で、「IV. 身体的活動」「IX. 学歴尊重」「X. 健康性」とは5%水準で有意な正の相関があった。

このことからまずいえることは、性役割の女性性は、いずれも“自分の能力を高め、心を豊かにすること”“自分に責任をもち、自立すること”“友人を多くつくり、グループで活動すること”や“周囲から高い評価を受けること”を重視する傾向と関連するといえる。次に個々にみても、統合的女性性は、「VII. 社会的評価」や「I. 自己成長性」「III. 自立性」と他に比較すると高い相関を示しているが、「VI. 愛他性」「VIII. 家庭生活」と「X. 健康性」の3尺度とは相関はみられなかった。つまり、統合的女性性は、積極的で自己主張的であるという要素を併せ持っているもので、どちらかという生活や健康、他者への援助よりも、自分の能力を高めたり、社会から高い評価を受けることを重視するのではないだろうか。行動的女性性は、結婚子どもや家庭をもつことと最も深い関係を示しているが、安定した収入を得るといふ経済的安定性とは、関係はみられなかった。つまり、行動的女性性が、協調性や女らしさ、幸福感という要素から構成されているということを見ると、経済的に安定した生活をおくることより、むしろ精神的に安定した生活をおくることを重視しているといえる。態度・関心的女性性は、価値観の全ての尺度と関連があることから、安心感を求めるほど、すべての価値を重視していることがわかる。

次に、四年制大学女子1・2年生についてであるが、統合的女性性は、「I. 自己成長性」「III. 自立性」「IV. 身体的活動」「V. 対人志向性」「VII. 社会的評価」「VIII. 家庭生活」と1%水準で有意な正の相関を示し、「VI. 愛他性」「X. 健康性」とは5%水

性役割形成と自我同一性地位及び価値観との関連

準で有意な正の相関を示したが、「II. 経済的安定性」「IX. 学歴尊重」とは、有意な相関は見られなかった。行動的女性性は、「I. 自己成長性」「III. 自立性」「IV. 身体的活動」「V. 対人志向性」「VI. 愛他性」「VII. 社会的評価」「VIII. 家庭生活」「X. 健康性」との間に1%水準で有意な正の相関が認められた。態度・関心的女性性は、「I. 自己成長性」「V. 対人志向性」「VI. 愛他性」「VII. 社会的評価」「VIII. 家庭生活」とは1%水準で、また「III. 自立性」「X. 健康性」とは5%水準でそれぞれ有意な正の相関を示した。これらのことから、共通していえることは、性役割の女性性は、自分や家族、仲間を大切にすること、また社会から承認されることと深い関係があることがわかる。

しかしながら、性役割の女性性は、いずれも「II. 経済的安定性」および「IX. 学歴尊重」と有意な相関を示さず、これらの価値観は、性役割の女性性とは関連がないといえる。

短期大学生と四年制大学女子1・2年生を比較してみると、両群とも女性性役割は、「I. 自己成長性」、「III. 自立性」、「V. 対人志向性」および「VII. 社会的評価」とは関係がある。また、短期大学生では「IX. 学歴尊重」と女性性役割とは関連があるのに対し、四年制大学女子1・2年生では、全く関係がみられなかった点が特徴的であった。

(4)自我同一性地位の決定要因としての「探索」「傾倒」と価値観との関係

自我同一性と価値観の関係を検討するために、自我同一性との職業・価値・学業の各領域ごとに、「探索」「傾倒」尺度と価値観の10尺度との相関をピアソンの相関係数によって算出し、短期大学生の結果を表4-1に、四年制大学女子1・2年生の結果を表4-2に示した。

まず短期大学生であるが、職業領域の「探索」が「I. 自己成長性」、「III. 自立性」、

表4-1 短期大学生の価値観と自我同一性との相関 (N=399)

下位尺度	職業領域		価値領域		学業領域	
	探索	傾倒	探索	傾倒	探索	傾倒
I. 自己成長性	.3492**	.1846**	.3783**	.1240*	.1498**	.1354*
II. 経済的安定性	.0713	-.0076	.0125	-.0811	.0071	.0597
III. 自立性	.2985**	.1810**	.3071**	.1273*	.1074	.1346*
IV. 身体的活動	.1273*	.0825	.0598	.0364	.0065	.0067
V. 対人志向性	.0565	-.0427	-.0143	-.0199	.0316	.0454
VI. 愛他性	.1270*	.0636	.1040	-.0514	.0469	.0544
VII. 社会的評価	.1569**	.1062	.1463*	.0736	.0738	.0720
VIII. 家庭生活	.0093	-.0467	.0381	.0053	.1028	.1279*
IX. 学歴尊重	.0369	.0108	.0430	-.0328	.0064	.0048
X. 健康性	.0963	-.0033	-.0026	-.0632	.0897	-.0286

* p<.05 ** p<.01

表4-2 四年制大学女子1・2年生の価値観と自我同一性との相関（N=443）

下位尺度	職業領域		価値領域		学業領域	
	探索	傾倒	探索	傾倒	探索	傾倒
I. 自己成長性	.3400**	.1956**	.3682**	.2179**	.2014**	.1976**
II. 経済的安定性	.0679	-.0604	-.1251*	-.1149*	-.0164	-.0590
III. 自立性	.3465**	.1942**	.2819**	.1798**	.1713**	.2330**
IV. 身体的活動	.2047**	.1034*	.1311**	.1595**	.0792	.1251*
V. 対人志向性	.0470	-.0366	-.0573	-.0165	.0130	.0397
VI. 愛他性	.2235**	.1443**	.1800**	.0669	.1894**	.1573**
VII. 社会的評価	.1860**	.0918	.0988*	.0205	.1329**	.0332
VIII. 家庭生活	.0298	.0414	.0138	.1320**	.0318	-.0239
IX. 学歴尊重	.0583	.0363	-.0655	-.0410	.0543	-.0330
X. 健康性	.0857	.0278	-.0489	-.0222	-.0681	.0150

* p<.05 ** p<.01

「VII. 社会的評価」と1%水準で有意な正の相関を示したほか、「IV. 身体的活動」や「VI. 愛他性」と5%水準で有意な正の相関を示した。また、「傾倒」は「I. 自己成長性」および「III. 自立性」と1%水準で有意な正の相関を示した。この結果から見ると、将来の職業について迷いや探索の経験し、そのうえで自分の職業を決定するには、自己成長や自立に関する価値が深く関係していることが理解できる。

価値領域についてみると、「探索」とは「I. 自己成長性」と「III. 自立性」とに1%水準で、「VII. 社会的評価」とは5%水準で有意な正の相関を示した。また、「傾倒」とは「III. 自立性」と「I. 自己成長性」とに5%水準で有意な正の相関を示した。このことから、自分の生き方について深く考え、人生の目標をもつためには、自己成長性や自立性という価値観が関連しているといえる。

学業領域については、「探索」が「I. 自己成長性」と1%水準で有意な正の相関を示した。また、「傾倒」は「I. 自己成長性」、「III. 自立性」および「VIII. 家庭生活」と5%水準でゆるい正の相関を示したことから見ると、将来の学科や専攻に迷いや探索の経験があるほど、自己成長性に関する価値観を重視しており、コミットメントが高いほど自己の能力や信念、或いは家庭生活に関する価値観と関係していると解釈することができよう。

次に四年制大学女子1・2年生の職業領域については、「探索」と「III. 自立性」、「I. 自己成長性」、「VI. 愛他性」、「IV. 身体的活動」、「VII. 社会的評価」との間で1%水準で有意な正の相関を示した。また、「傾倒」とは「I. 自己成長性」、「III. 自立性」および「VI. 愛他性」と1%水準で、「IV. 身体的活動」とは5%水準で有意な

性役割形成と自我同一性地位及び価値観との関連

正の相関を示した。この結果から、自己成長性、自立性及び他者援助に関する価値をもつことが、将来の職業選択と関係があるといえる。

価値領域については、「探索」と「I. 自己成長性」、「III. 自立性」、「VI. 愛他性」、および「IV. 身体的活動」が1%水準で、「VII. 社会的評価」とは5%水準でそれぞれ有意な正の相関を示したが、「II. 経済的安定性」とは、5%水準で有意な負の相関を示した。つまり、身体的・精神的な人間としての成長や他者への援助を志向するほど、自分の生き方や価値観に関して迷いや探索を多く経験すると解釈でき、また、そのような探索を多く経験をすることは、経済的安定性を重視しないことが理解できる。「傾倒」についてみると、「I. 自己成長性」、「III. 自立性」、「IV. 身体的活動」と「VIII. 家庭生活」との間において1%水準で有意な正の相関を示し、「II. 経済的安定性」との間では5%水準で有意な負の相関を示した。この結果から、自分の生き方や人生の目標が定まっているほど、人間としての成長や家庭生活という価値を志向するが、経済的な安定は志向しないと解釈できる。

学業領域については、「探索」では、「I. 自己成長性」、「VI. 愛他性」、「III. 自立性」および「VII. 社会的評価」と1%水準で有意な正の相関を示した。また、「傾倒」では「III. 自立性」、「I. 自己成長性」および「VI. 愛他性」と1%水準で、「IV. 身体的活動」と5%水準で有意な正の相関を示した。この結果から、自分の専攻に迷いや探索を経験しているほど、人間としての成長や他者への援助、社会からの評価を志向する傾向があり、また自分の専攻にコミットメントしているほど、自分自身の成長や他者への援助を志向している傾向があると解釈することができよう。

以上のことから、短期大学生と四年制大学女子1・2年生を比較すると、自己の能力を高め人間として成長することや自力で問題を解決することとは、共通して自我同一性と関係がある。特に、四年制大学女子1・2年生では、人生の目標が明確になると、経済的な安定性をそれほど重視しなくなる。また、身体的活動を志向することは、自分の生き方や将来の職業と関係している。さらに人々のために役立つことに価値をおくことは職業や学業を選択する上で重要なポイントであると解釈できる。学業領域において、自分の専攻に迷いや探索を経験し、そのうえで自己を投入するには、四年制大学生では、自己の成長や他者への援助に関する価値を志向すると関係するが、短期大学生では、自己の成長に関する価値を志向することが探索も傾倒も経験すると解釈できる。

(5)自我同一性地位と性役割との関連

自我同一性地位の「達成」「モラトリアム」「早期完了」「拡散」のそれぞれにおいて、女性性役割の各側面がどの程度達成されているかを検討した。

自我同一性地位の決定にあたっては、表5に示した四年制大学女子全員の「探索」及び

表5 自我同一性地位尺度の平均とSD

下位尺度		四年制大学女子全体 (N=572)
職業領域	探索	30.35 (5.56)
	傾倒	23.58 (6.29)
価値領域	探索	28.59 (6.15)
	傾倒	22.07 (5.88)
学業領域	探索	27.12 (5.26)
	傾倒	29.61 (5.46)

表6 各領域ごとの同一性地位の度数

	短期大学生(N=399)				四年制大学女子1・2年生(N=443)			
	達成	モラトリアム	早期完了	拡散	達成	モラトリアム	早期完了	拡散
職業領域	83	67	58	191	146	80	118	119
価値領域	47	89	84	191	118	119	58	143
学業領域	65	88	32	214	132	73	95	143

「傾倒」尺度の平均値とし、各個人の得点に基づいて4つの同一性地位のいずれかに分類した。すなわち、それぞれの領域ごとに「探索」及び「傾倒」がともに基準値以上の群を『達成』とし、「探索」は基準値以上であるのに対して「傾倒」は基準値未満の群を『モラトリアム』とした。また、「探索」は基準値未満であるのに対して「傾倒」は基準値以上の群を『早期完了』とし、「探索」及び「傾倒」がいずれも基準値未満の群を『拡散』とした。なお、それぞれの領域における各地位の出現度数を表6に示した。

次に自我同一性地位の各地位における性役割の達成の程度を検討するために、それぞれの地位ごとに女性性役割3尺度の平均と標準偏差を求め、一元配置の分散分析によって検定した結果を表7-1と表7-2に示した。

まず、短期大学生について検討する。

職業領域において、4つの自我同一性地位間に有意な条件差が認められたのは、「統合的女性性」と「態度・関心的女性性」の2尺度であった。このうち、「統合的女性性」については、『達成』が最も高く、『拡散』が最も低い得点を示した。つまり、職業に対して前向きにその内容を理解し、打ち込むためには、統合的女性性の獲得が関係していると思われる。また、態度・関心的女性性を獲得すると職業選択において自分の進むべき方向性を暗中模索していると思われる。

価値領域については、3つの女性性役割すべてにおいて、自我同一性地位間に有意な条件差が認められた。特に、『達成』はすべての尺度において最も得点が高く、統合的女性

性役割形成と自我同一性地位及び価値観との関連

表 7 - 1 自我同一性地位と性役割との関係 (短期大学, N=399)

自我同一性地位		達成 (N=83)	モラトリアム (N=67)	早期完了 (N=58)	拡散 (N=191)	分散分析 F (3,395)
性役割						
職業 領域	統合的女性性	19.06(4.47)	18.48(4.17)	18.17(4.34)	17.39(4.17)	3.306 *
	行動的女性性	18.23(2.83)	18.39(3.07)	17.79(2.92)	17.47(3.11)	2.130
	態度・関心的女性性	21.37(4.20)	21.76(4.25)	19.50(4.60)	20.01(3.93)	5.277 **
自我同一性地位		達成 (N=47)	モラトリアム (N=89)	早期完了 (N=84)	拡散 (N=191)	分散分析 F (3,395)
性役割						
価値 領域	統合的女性性	21.36(4.24)	17.63(4.22)	19.23(4.05)	16.80(3.87)	18.828 **
	行動的女性性	19.89(3.28)	17.90(3.45)	18.50(2.86)	16.94(2.43)	15.148 **
	態度・関心的女性性	22.51(4.14)	22.26(4.14)	19.40(4.11)	19.64(3.86)	14.331 **
自我同一性地位		達成 (N=65)	モラトリアム (N=88)	早期完了 (N=32)	拡散 (N=214)	分散分析 F (3,395)
性役割						
学業 領域	統合的女性性	18.63(4.61)	17.89(3.89)	20.16(4.44)	17.59(4.22)	3.854 **
	行動的女性性	18.94(3.01)	17.74(2.58)	19.19(3.27)	17.33(3.04)	7.295 **
	態度・関心的女性性	21.58(4.45)	20.73(4.38)	20.50(4.58)	20.10(3.96)	2.171

* :p<.05 ** :p<.01

性と行動的女性性では『拡散』の、態度・関心的女性性では『早期完了』の得点が最も低かった。この結果から、短期大学生において女性性役割を獲得することが、自分の人生を目標づけると示唆される。

学業領域では、「統合的女性性」と「行動的女性性」において自我同一性地位間に有意な条件差が認められた。両尺度とも『早期完了』の得点がもっとも高く、『拡散』の得点がもっとも低かった。つまり、統合された女性性や伝統的な女性性を獲得していると、学科や専攻を決定する際において、迷いや探索を経験しないと考えられる。

次に四年制大学女子1・2年生について検討してみよう。職業領域では、性役割のすべての尺度で自我同一性地位間に有意な条件差が認められた。このうち、「統合的女性性」と「行動的女性性」のそれぞれの『達成』の得点が最も高く、『拡散』が最も低い得点を示した。また、「態度・関心的女性性」の『達成』の得点が最も高く、『早期完了』が最も低かった。つまり、職業に対しての自我同一性の確立には、女性性役割の獲得が必要であると思われる。

価値領域についてもすべての尺度で自我同一性地位間に有意な条件差が認められた。中でも「統合的女性性」と「行動的女性性」の『達成』の得点が最も高く、『拡散』の得点

大手前女子短期大学・大手前栄養文化学院・大手前ビジネス学院「研究集録」第14号（1994年）

表7-2 自我同一性地位と性役割との関係（四年制大学女子1・2年生，N=443）

		達成	モラトリアム	早期完了	拡散	分散分析
自我同一性地位		(N=146)	(N=80)	(N=118)	(N=119)	F(3,439)
性役割						
職業領域	統合的女性性	19.49(4.97)	18.06(4.85)	17.87(4.90)	16.42(4.01)	10.767**
	行動的女性性	18.81(3.72)	17.89(3.49)	17.91(2.73)	17.16(3.42)	5.612**
	態度・関心的女性性	21.55(4.31)	19.96(4.29)	19.00(4.35)	19.79(3.69)	7.602**
自我同一性地位		(N=118)	(N=119)	(N=58)	(N=143)	F(3,439)
性役割						
価値領域	統合的女性性	20.64(4.88)	16.89(4.39)	19.40(4.20)	15.96(4.07)	28.514**
	行動的女性性	19.22(3.75)	17.37(3.46)	18.67(3.34)	17.06(2.99)	10.850**
	態度・関心的女性性	20.91(3.85)	21.67(4.13)	18.31(4.16)	19.52(4.13)	11.713**
自我同一性地位		(N=132)	(N=73)	(N=95)	(N=143)	F(3,439)
性役割						
学業領域	統合的女性性	19.47(4.81)	16.75(4.73)	18.67(4.41)	16.68(4.58)	10.613**
	行動的女性性	18.88(3.66)	17.11(3.69)	18.47(3.13)	17.17(3.20)	7.872**
	態度・関心的女性性	20.70(4.25)	20.11(3.73)	20.38(4.52)	19.91(4.18)	0.867

* :p<.05 ** :p<.01

が最も低かった。また、「態度・関心的女性性」の『モラトリアム』の得点がもっとも高く、『早期完了』の得点がもっとも低かった。つまり、人生の目標に自己を投入するためには、統合的あるいは伝統的な女性性を獲得することが必要である。

学業領域においては、「統合的女性性」と「行動的女性性」の2尺度で自我同一性地位間に有意な条件差が認められた。つまり、将来の学科や専攻に対して積極的に自己を投入するには、統合的女性性と行動的女性性を獲得することが必要となる。

(6)自我同一性地位と価値観との関連

自我同一性地位の「達成」「モラトリアム」「早期完了」「拡散」のそれぞれにおいて、価値観の各側面がどの程度達成されているかを検討した。自我同一性地位の各地位における価値観の達成の程度を検討するために、それぞれの地位ごとに価値観10尺度の平均と標準偏差を求め、一元配置の分散分析によって検定した結果を表8-1と表8-2に示した。

まず、短期大学生の結果について検討した。

職業領域においては、「I. 自己成長性」「III. 自立性」「IV. 身体的活動」「VI. 愛

性役割形成と自我同一性地位及び価値観との関連

他性」の4尺度で自我同一性地位間に有意な条件差が認められ、「Ⅲ. 自立性」は『達成』の得点が一番高く、またその他の有意差が認められた尺度については『モラトリアム』の得点が最も高く、『拡散』の得点が最低だった。つまり、自分の可能性を追求することや社会に貢献することに価値観をもっているものは、職業において積極的に自己と照らし合わせ、マッチするものを探していると考えられる。

価値領域においては、「Ⅰ. 自己成長性」「Ⅱ. 経済的安定性」「Ⅲ. 自立性」「Ⅳ. 身体的活動」及び「Ⅶ. 社会的評価」の5尺度で自我同一性地位間に有意な条件差が認められた。有意差が認められた尺度の中でも「Ⅱ. 経済的安定性」だけは『早期完了』の得点が最も高く、『達成』の得点が最も低かったことから、自分の生き方について十分に考えその上で自己投入すると経済的な安定は重要視せず、逆に探索せずに自己投入すると非常に経済的な価値観を獲得すると推察できる。

学業領域では、「Ⅰ. 自己成長性」と「Ⅲ. 自立性」のみに自我同一性地位間に有意な条件差が認められ、いずれも『達成』地位の得点がもっとも高かった。従って、学科や専攻の決定には、“自分の能力を高めること”とか“人間的に成長すること”等に自己の価値をおいているほど、学科や専攻について探索を行い、その後に傾倒していると解釈できる。

次に四年制大学女子1・2年生の結果について検討した。

職業領域においては、「Ⅰ. 自己成長性」「Ⅲ. 自立性」「Ⅳ. 身体的活動」「Ⅵ. 愛他性」「Ⅶ. 社会的評価」の5尺度で自我同一性地位間に有意な条件差が認められ、「Ⅰ. 自己成長性」と「Ⅲ. 自立性」は、『達成』に得点が最も高く、『拡散』の得点が最も低い。「Ⅳ. 身体的活動」では、『モラトリアム』の得点が最も高く『拡散』の得点が最も低い。「Ⅵ. 愛他性」と「Ⅶ. 社会的評価」では、『達成』の得点が最も高く『早期完了』の得点が最も低かった。つまり、自分の能力や社会的貢献に価値観を持つことが職業領域において十分に打ち込む事ができる。

価値領域においては、「Ⅱ. 経済的安定性」「Ⅴ. 対人志向性」「Ⅶ. 社会的評価」「Ⅸ. 学歴尊重」「Ⅹ. 健康性」の5尺度を除く尺度で自我同一性地位間に有意な条件差が認められた。つまり、自分の人生において『達成』の地位を獲得すると自己の能力や社会貢献、幸せな家庭などに価値を置くようになる。また、家庭生活に価値を持てなければ、モラトリアムの状態に陥る可能性を示唆している。

学業領域においては、「Ⅰ. 自己成長性」と「Ⅲ. 自立性」及び「Ⅵ. 愛他性」の3尺度で自我同一性地位間に有意な条件差が認められた。このことから、『達成』の地位に到達すると学業においても自己の成長や自立、社会的貢献を中心的な決定要因として学科や専攻を決定しているのではないだろうか。

大手前女子短期大学・大手前栄養文化学院・大手前ビジネス学院「研究集録」第14号（1994年）

表 8 - 1 自我同一性地位と価値観との関係（短期大学生，N = 399）

自我同一性地位	達成 (N=83)	モラトリアム (N=67)	早期完了 (N=58)	拡散 (N=191)	分散分析 F (3,395)
価値観					
I. 自己成長性	20.84(2.34)	21.03(2.73)	19.98(2.58)	19.36(2.31)	11.650 **
II. 経済的安定性	19.07(3.45)	19.27(3.14)	18.91(2.81)	18.61(2.70)	1.008
III. 自立性	20.43(2.25)	20.39(2.14)	19.50(1.98)	18.99(2.23)	11.779 **
職業領域 IV. 身体的活動	17.02(3.11)	17.81(2.86)	17.14(2.54)	16.67(2.67)	2.801 *
V. 対人志向性	18.41(2.85)	19.25(2.76)	18.60(2.85)	18.59(2.67)	1.314
VI. 愛他性	16.90(3.48)	17.91(3.19)	17.53(2.66)	16.76(2.69)	3.013 *
VII. 社会的評価	17.13(3.41)	16.76(3.58)	16.36(3.23)	16.27(2.92)	1.576
VIII. 家庭生活	17.59(4.41)	19.13(4.34)	18.40(4.28)	18.03(3.65)	1.974
IX. 学歴尊重	13.67(4.19)	13.24(3.78)	13.28(3.65)	13.41(3.58)	0.206
X. 健康性	20.42(3.52)	21.39(2.57)	20.59(3.12)	20.34(2.86)	2.093
自我同一性地位	達成 (N=47)	モラトリアム (N=89)	早期完了 (N=84)	拡散 (N=191)	分散分析 F (3,395)
価値観					
I. 自己成長性	21.79(2.08)	20.96(2.37)	19.92(2.48)	19.18(2.36)	20.926 *
II. 経済的安定性	18.40(3.96)	19.35(2.85)	19.38(2.77)	18.50(2.74)	2.952 *
III. 自立性	20.91(2.31)	20.40(1.94)	19.69(2.44)	18.82(2.02)	18.064 **
価値領域 IV. 身体的活動	17.98(3.35)	17.11(3.10)	17.12(2.89)	16.64(2.35)	3.043 *
V. 対人志向性	18.66(2.91)	18.99(2.83)	18.60(3.00)	18.54(2.55)	0.557
VI. 愛他性	17.26(4.23)	17.60(3.15)	17.17(2.68)	16.78(2.58)	1.579
VII. 社会的評価	17.38(3.93)	17.06(3.36)	16.64(3.03)	16.02(2.90)	3.486 *
VIII. 家庭生活	18.13(4.55)	18.73(4.01)	18.73(4.02)	17.65(3.90)	2.068
IX. 学歴尊重	13.09(4.52)	13.85(3.48)	13.69(3.52)	13.16(3.76)	0.943
X. 健康性	20.85(3.47)	20.88(2.96)	20.32(3.27)	20.45(2.79)	0.717
自我同一性地位	達成 (N=65)	モラトリアム (N=88)	早期完了 (N=32)	拡散 (N=214)	分散分析 F (3,395)
価値観					
I. 自己成長性	21.02(2.32)	20.00(2.45)	20.81(2.52)	19.64(2.53)	6.186 **
II. 経済的安定性	19.17(3.23)	18.75(2.90)	19.56(2.81)	18.71(2.92)	1.047
III. 自立性	20.34(2.41)	19.56(2.07)	20.00(2.28)	19.34(2.26)	3.642 *
学業領域 IV. 身体的活動	17.32(3.41)	17.09(2.54)	17.31(2.97)	16.82(2.67)	0.736
V. 対人志向性	18.66(2.75)	18.74(2.51)	19.09(2.74)	18.57(2.87)	0.360
VI. 愛他性	17.14(3.96)	17.32(2.24)	17.75(2.95)	16.90(2.90)	0.996
VII. 社会的評価	17.09(3.72)	16.31(2.87)	17.06(3.29)	16.40(3.14)	1.220
VIII. 家庭生活	18.74(4.48)	18.09(3.92)	18.94(3.26)	17.93(4.06)	1.078
IX. 学歴尊重	13.28(4.02)	13.11(3.53)	13.78(3.76)	13.53(3.76)	0.386
X. 健康性	20.95(3.15)	20.92(2.90)	20.28(3.71)	20.35(2.90)	1.227

* :p<.05 ** :p<.01

性役割形成と自我同一性地位及び価値観との関連

表 8 - 2 自我同一性地位と価値観との関係 (四年制大学女子 1・2 年生, N=443)

自我同一性地位	達成 (N=146)	モラトリアム (N=80)	早期完了 (N=68)	拡散 (N=149)	分散分析 F (3,439)
価値観					
I. 自己成長性	21.75(1.86)	21.43(2.07)	20.97(2.32)	20.21(2.41)	13.123**
II. 経済的安定性	17.43(3.35)	17.79(2.94)	16.60(3.53)	17.81(2.92)	2.522
III. 自立性	21.00(2.00)	20.76(2.18)	19.53(2.34)	19.34(2.16)	18.728**
IV. 身体的活動	17.06(3.26)	17.10(3.42)	16.66(3.13)	15.82(2.96)	4.665**
V. 対人志向性	18.13(3.13)	18.15(2.91)	17.26(2.91)	18.19(2.82)	1.757
VI. 愛他性	17.77(3.62)	16.95(3.23)	15.96(3.48)	16.16(2.96)	7.432**
VII. 社会的評価	16.31(3.26)	15.86(3.05)	14.88(3.62)	15.56(2.93)	3.374*
VIII. 家庭生活	16.49(5.00)	15.94(4.85)	16.04(4.46)	16.15(4.26)	0.310
IX. 学歴尊重	13.00(4.13)	12.54(3.59)	12.19(3.86)	13.11(3.57)	1.159
X. 健康性	20.36(3.29)	20.49(3.01)	20.22(3.17)	19.89(3.03)	0.824
自我同一性地位	達成 (N=118)	モラトリアム (N=119)	早期完了 (N=58)	拡散 (N=143)	分散分析 F (3,439)
価値観					
I. 自己成長性	22.20(1.54)	21.41(2.08)	20.24(2.54)	20.13(2.29)	25.025**
II. 経済的安定性	16.81(3.29)	17.57(3.46)	17.88(2.93)	17.81(2.94)	2.552
III. 自立性	21.14(2.04)	20.35(2.19)	19.60(2.43)	19.43(2.15)	14.862**
IV. 身体的活動	17.48(3.44)	16.42(2.96)	16.45(3.83)	16.04(2.85)	4.601**
V. 対人志向性	17.77(3.46)	17.99(2.97)	18.33(2.82)	18.11(2.58)	0.525
VI. 愛他性	17.51(3.86)	16.97(3.39)	15.98(3.12)	16.35(2.97)	3.808*
VII. 社会的評価	15.92(3.31)	16.05(3.28)	15.71(3.16)	15.43(3.07)	0.910
VIII. 家庭生活	17.05(4.95)	15.48(4.77)	16.62(4.63)	15.85(4.18)	2.717*
IX. 学歴尊重	12.42(4.15)	12.85(4.13)	12.98(3.75)	13.15(3.25)	0.795
X. 健康性	20.06(3.48)	20.32(3.09)	19.93(3.24)	20.25(2.84)	0.281
自我同一性地位	達成 (N=132)	モラトリアム (N=73)	早期完了 (N=95)	拡散 (N=143)	分散分析 F (3,439)
価値観					
I. 自己成長性	21.58(2.02)	21.33(2.30)	21.00(2.33)	20.46(2.26)	6.263**
II. 経済的安定性	17.18(3.12)	17.64(3.51)	17.32(3.25)	17.83(3.02)	1.108
III. 自立性	20.73(2.02)	20.23(2.37)	20.32(2.31)	19.53(2.27)	6.765**
IV. 身体的活動	17.14(3.09)	16.27(3.44)	16.52(3.39)	16.29(3.04)	1.982
V. 対人志向性	17.95(3.17)	17.85(2.94)	18.12(2.98)	18.12(2.79)	0.186
VI. 愛他性	17.53(3.31)	16.73(3.35)	16.92(3.59)	16.09(3.22)	4.231**
VII. 社会的評価	15.80(3.22)	16.27(3.15)	15.93(3.40)	15.34(3.05)	1.527
VIII. 家庭生活	16.33(4.59)	16.14(4.96)	15.73(4.80)	16.45(4.43)	0.507
IX. 学歴尊重	12.62(3.88)	13.78(4.16)	12.83(3.66)	12.54(3.62)	1.922
X. 健康性	20.15(3.00)	20.11(3.31)	20.24(3.43)	20.28(2.98)	0.064

* : $p < .05$ ** : $p < .01$

IV. まとめ

以上、短期大学生と四年制大学女子1・2年生の比較を通して、青年期女子の性役割形成と自我同一性地位と価値観との関連を検討してきた。四年制大学生女子を1・2年生に限定したのは、短期大学生と年齢差をなくすことで、より人格形成の各要因の比較を明確にするためであった。

まず、第一に性役割と自我同一性地位の「探索」および「傾倒」との関連を検討した。短期大学生も四年制大学生女子も職業領域及び価値領域の自我同一性地位と性役割とが深く関係していることが示されたが、学業領域においては、短期大学生では行動的女性性が深い関連を持つものに対して、四年制大学生女子は統合的女性性と関連していることが示された。このことは、短期大学に進学する学生は、いわゆる伝統的な女性性を獲得しているものに対して、四年制大学へ進学した女子にとっては、統合的女性性を獲得していると考えられる。しかし、短期大学と四年制大学との進学動機の違いや大学在学期間の相違も考えられ、今後検討する必要があるだろう。

第二に、性役割と価値観との関連を検討した。短期大学生では、統合的女性性役割の獲得には、他者への援助や家庭生活、健康性という価値を志向しないことが理解できた。また、行動的女性性役割と、経済的な安定を志向することとは、関係がなかった。さらに態度・関心的女性性役割と、すべての価値とは関係があることが理解できた。

四年制大学生女子では、性役割のすべての尺度で経済的な安定性や学歴を尊重するという2つを除いた8つの価値を志向していることが理解できる。

第三に、価値観と自我同一性地位の「探索」および「傾倒」との関連を検討した。その中で、四年制大学生女子は自己の生き方を探索し自己投入するうえで、経済的な安定を志向することは、マイナスに作用するというものであり、自己の人生設計と経済的に安定することとは相反する関係を示した。

第四に、性役割と自我同一性地位との関連を検討した。将来の職業や自分の信念や生き方においては、自我同一性を達成することと性役割を獲得することとは深い関係にあることが理解できる。しかし、将来進学したい学科や専攻を選択する場合に、短期大学生は、自分の適性や能力という要因よりもむしろ“キャンパスの美しさ”や“ファッション性”などの要因を重視していると思われ、このことは芳田(1992)の「短期大学への進学決定要因」の結果を踏襲するものといえる。

最後に、価値観と自我同一性地位との関連を検討した。総体的に言えることは、自己の成長に係わる価値観をもつことと自我同一性地位において探索を経験したのちに自己投入するという「達成」とが深く関わっていると推察できた。

この様に短期大学生と四年制大学生の比較を通して青年期の人格形成の中心的課題であ

性役割形成と自我同一性地位及び価値観との関連

る性役割形成と自我同一性地位と価値観との関連を検討したが、短期大学同士の比較、また同属間の比較など、検討する余地があり、今後さらに検討を重ねていきたい。

文 献

- 井上知子・三川俊樹・芳田茂樹 1989 青年期における人格形成と精神的健康に関する研究（Ⅰ）－研究方法に関する文献展望－，追手門学院大学文学部紀要，23，1－17.
- 井上知子・三川俊樹・芳田茂樹 1990 青年期における人格形成と精神的健康に関する研究（Ⅳ）－性役割尺度再考－，追手門学院大学文学部紀要，24，39－48.
- 井上知子・三川俊樹・芳田茂樹 1993 価値観測定の展望と方法についての文献展望，追手門学院大学文学部紀要，27，1－19.
- 井上知子・三川俊樹・芳田茂樹 1993 新性役割尺度の構成に関する研究，追手門学院大学文学部紀要，28，1－17.
- 井上知子・三川俊樹・島久洋・芳田茂樹 1994 現代青年の価値観について，平成4、5年度科学研究費補助金（総合研究A）研究成果報告書，現代青年の行動様式と価値観，代者研究者，秋葉英則，Pp.125－157.
- 三川俊樹・井上知子・芳田茂樹 1989 青年期における人格形成と精神的健康に関する研究（Ⅱ）－自我同一性地位および性役割の測定－，追手門学院大学文学部紀要，23，19－36.
- 三川俊樹・井上知子・芳田茂樹 1990 青年期における人格形成と精神的健康に関する研究（Ⅲ）－性役割および自我同一性地位と価値観との関連－，追手門学院大学文学部紀要，24，23－37.
- 三川俊樹・井上知子・芳田茂樹 1991 青年期における人格形成と精神的健康に関する研究（Ⅴ）－性役割および自我同一性地位と役割受容・充実感の関連－，追手門学院大学文学部紀要，25，51－67.
- 三川俊樹・井上知子・芳田茂樹 1993 新価値観尺度の開発，追手門学院大学文学部紀要，28，35－49.
- 芳田茂樹 1992 短期大学進学決定要因と自我同一性地位との関連について，大手前女子短期大学・大手前栄養文化学院・大手前ビジネス学院「研究集録」第13号，26－43.
- 芳田茂樹・井上知子・三川俊樹 1993 青年期の性役割形成と自我同一性地位および自我機能との関連，大手前女子短期大学・大手前栄養文化学院・大手前ビジネス学院「研究集録」第13号，24－42.

付表1 価値観尺度の項目

I. 自己成長性	VI. 愛他性
1. 自分の能力を高めること	6. 社会のために貢献すること
11. 人間として成長すること	16. 他の人々の役に立つ人間になること
21. 自分の心を豊かにすること	26. 社会の幸福と平和のために尽くすこと
31. 新しいことを発見したり、考えたりすること	36. 他の人々のためになる仕事をする事
II. 経済的安定性	VII. 社会的評価
2. 安定した収入があること	7. 他の人々から認められること
12. 経済的に豊かな生活をする事	17. 重要な人物として認められること
22. 金銭的な心配のないこと	27. 自分の能力が高い評価を受けること
32. 高い収入を得ること	37. 他の人々から注目されること
III. 自立性	VIII. 家庭生活
3. 自分に責任をもつこと	8. 子どもをもつこと
13. 自分の力で問題を解決すること	18. 結婚すること
23. 自分の信念や考えに忠実であること	28. 満足できる結婚生活をおくること
33. 自立すること	38. 家庭をもつこと
IV. 身体的活動	IX. 学歴尊重
4. 身体を使って活動すること	9. よい学校に入ること
14. 運動やスポーツをすること	19. 有名な大学に進学すること
24. 自分の体力を使うこと	29. 試験でトップクラスの成績をとること
34. 身体をきたえること	39. むずかしい学校に合格すること
V. 対人志向性	X. 健康性
5. 他の人々と一緒にものごとをすること	10. 健康に注意すること
15. グループで活動すること	20. 病気やケガをしないこと
25. 友人が多いこと	30. 健康であること
35. 友人と一緒に時間を過ごすこと	40. 身体をいたわること

付表2 新性役割尺度の項目

(男性用)	(女性用)
I. 統合的男性性	I. 統合的女性性
1. 親切である	4. 行動的である
7. 思いやりがある	10. 積極的である
13. やさしい	16. 自分の意見を主張する
19. 良心的である	22. 意欲的である
25. 人に気配りができる	28. 陽気である
31. やさしい声で話す	34. 態度がはっきりしている
II. 行動的男性性	II. 行動的女性性
2. 強引である	5. 協調性がある
8. 支配的である	11. 女らしい
14. 独立心がつよい	17. 人に信用される
20. 冒険心がつよい	23. 心の傷ついた人をなぐさめる
26. 短期である	29. 幸せを感じる

性役割形成と自我同一性地位及び価値観との関連

32. 男らしい	35. 人をほめるのが好きである
III. 態度・関心的男性性	III. 態度・関心的女性性
3. 物事を理論的に考える	6. 感情的である
9. 知的である	12. 傷つきやすい
15. 仕事の手腕がある	18. 嫉妬深い
21. 機転がきく	24. 安心を求める
27. 数学や科学が好きである	30. すぐに泣く
33. 創造的である	36. 空想的である

付表3 自我同一性地位尺度の項目例 (*は逆転項目を示す)

A. 職業領域

(1) 探 索 (Exploration)

1. 私は、自分がどんな職業につきたいのか、あれこれと悩んだことがある
3. 私は、将来の職業について、いろいろな面から検討してみたことがある
5. 私は、将来の職業について、確かに相談したことがある

(2) 傾 倒 (Commitment)

- * 2. 私は、自分が本当にやってみたい仕事は何なのか、まだよくわからない
- 4. 私は、自分がどんな職業につくか、すでに決心している
- 6. 私は、希望する職業につくために、資格を取ったり、専門的な勉強をしている

B. 価値領域

(1) 探 索 (Exploration)

- * 1. 私は、自分の生き方については、あまり深く考えたことがない
- 3. 私は、自分の生き方について、いろいろと考えたことがある
- 5. 私は、小さい頃から持っていた価値観や信念に、疑いをもったことがある

(2) 傾 倒 (Commitment)

- * 2. 私は、自分の生き方について、あまり自信がない方である
- 4. 私は、はっきりとした人生の目標をもっている方である
- * 6. 私には、「これが自分の人生だ」と自信をもって言えるものがないように思う

C. 学業領域

(1) 探 索 (Exploration)

1. 私は、自分の専攻を選ぶときに、いろいろと悩んだ方である
- * 3. 私は、自分の専攻について、あまり深く考えたことがない
5. 私は、現在の専攻を選択する際に、自分の適性や能力について考えてみたことがある

(2) 傾倒 (Commitment)

1. 私は、現在の専攻について勉強することが楽しい
2. 私は、この専攻を選択したことに満足している
3. 私は、自分なりに、現在の専攻に打ち込んでいると思う。